

議題 1：令和 2 年度在宅医療・介護連携推進事業の取組について

(1) 「志木市医療・介護連携お助けガイド」について

委員の意見等	
①	更新内容の回収率にばらつきがあるのが残念。「お助けガイド」は有意義なツールだと思うので、調査方法や期間が妥当であったか評価することで、より情報収集ができ連携につながると思う。
②	介護支援専門員にとっては、各事業所の状況がわかり、サービス調整に役立つ情報で助けになっている。
③	今年度中に配布できると良い。今後も 2 年に一度は更新できると良い。
④	前は医科診療所の回収率が低かったが、今回は 80% を超えていて安心した。「お助けガイド」がどの程度活用されているのか評価できると良い。
⑤	未提出の事業所に声掛けを行い、回収率を上げていった方が良い。
⑥	最新の情報を活用できるように更新期間を短くする。活用やガイドのあり方、問題点、改善点等を検討できると良い。
⑦	在宅医療の専門医療機関の登録もお願いしたい。回収率を 100% にできると良い。
⑧	ガイド自体はある方が良い。各事業所のページにしか住所がなく全体像が把握しにくいので、地図上に各事業所の位置をプロットして全体の位置関係を把握しやすくしてほしい。
⑨	前回と比べて回収率が低くなっている事業所がある。回収率の低下の理由が、掲載する内容やガイドの使用方法などであれば、改善できると思うので調査依頼時に事業所から何か意見が出ているようであれば知りたい。
⑩	新しいクリニックや薬局なども増えているので、都度更新してほしい。市民にも情報提供する場合があるので、お助けガイドは役立っている。
⑪	前回掲載していて閉鎖した事業所や新しい事業所の確認が必要。
⑫	医科も歯科も回収率がかなり向上しており、前回のガイドを参考に活用の目的、必要性が普及しているのだと感じる。
⑬	各機関の情報が見やすく整理されており、ありがたい。医療介護関係者のワークショップやケアカフェのグループワークのテーブルに 1 冊置いてあると、初参加者や、普段、直接連携に携わる機会が少ない人でも情報交換がしやすくなるのではないかな。
⑭	市内事業所の把握や医療と介護連携の推進のためにも、今後も「お助けガイド」が必要である。
⑮	できる範囲で協力をしたい。
⑯	医療機関、保険薬局は回収率がアップして充実したかと思う。居宅介護支援事業所、訪問・通所リハビリテーション、地域密着型通所介護、認知症対応型共同生活介護、サービス付高齢者住宅の回収率の減少幅が大きいことが気になった。

(2) 「朝霞地区入退院支援ルール」の作成について

委員の意見等	
①	県の標準例や作成（案）は拝見しており、どのようなものになるか楽しみである。
②	各病院により対応がかなり違うため、ケアマネジャーの立場からは非常に良いツールになるのではと期待している。現場の意思にもぜひ参加していただき、在宅の実態を参考にさせていただけるようなシステムになると、医師と現場との行き違い等もなくなり良いと思う。

③	家族がいない人を地域ぐるみで支える具体的な支援方法の提示があると良い、今後、そのようなケースは増えていくと思われる。
④	支援ルールがどのようなものなのか、見えてこないのが早く見たいと思っている。
⑤	現状でどのような書式で検討しているのか知りたい。医師会に属していない医療機関でも使用できるように普及啓発してほしい。
⑥	必要な情報を相互に共有できるので、作成した方が良い。
⑦	県のルールや広域までを含めた入退院支援になると良い。
⑧	病院と入退院の連携がスムーズにできるのであれば必要である。
⑨	入退院時の標準的なルール作成は、関係者の効率も上がる期待感がある。情報ツールの内容に関して、実際に使用した人々の意見を基に内容の改善をするとより良いツールができると思う。(以前、他市で入退院時のツールができたのだが、関係者の使いにくさや周知不足があった)
⑩	具体的にどのように進めていくのか勉強していきたい。
⑪	退院時に在宅生活の支援が必要な人が慌てたり、不安にならないように、医療と介護の連携が潤滑に行われる必要があり、そのためにも情報共有は必須である。
⑫	ケアマネジャー対象の実態調査の結果に、医療との連携がとりにくいとあったが、ルール作成により解消され、連携の推進になると感じた。

(3) 住民への普及啓発について

委員の意見等	
①	在宅に関わるスタッフはもちろん、本人や家族への継続的な啓発活動を続けてほしい。
②	高齢者への啓発について、広報は町内会に加入していれば配られるが、そうでないと自分で興味がない限り手に取らないため難しい。新型コロナウイルス感染症の問題が終息したら、また講演会ができると良い。
③	広報を読んだ高齢者の家族から訪問診療についての問い合わせがあった。表紙にも出ていたのでインパクトがあり、周知効果があつて良いと思った。
④	広報記事への反響があった。思ったより広報は多く読まれていると感じた。
⑤	ホームページや終活ノートの活用、パンフレット等を作成し、医療機関や薬局で配布してもらう。
⑥	講演会資料の配布だけではなく、展示、説明会などキャラバンを展開していく必要があると思う。
⑦	市民が在宅での生活を続けていけるように、いろいろな手立てがあることがわかった。この仕組みは市民の「財産」であるが、単年度ベースで改善を目指すよりは、サービス提供者・相談窓口の誰に聞いても同じ答えが返ってくるよう、提供者側の教育を徹底することも大切である。繰り返し、様々な機会を通じて市民への広報に力を入れ、知ってもらおう努力をしてほしい。
⑧	講演会に参加する市民は普段から医療や介護に対する関心が高く、様々な情報を得ているので、今回の広報のように自ら情報を取得しない人にも届くような発信方法は今後も継続的に行っていく方が良い。
⑨	在宅での医療や介護が必要でもどうしたら良いかわからない人がまだ多いように感じる。本人や家族が自ら情報を集められる人でない場合や訪問に対しての拒否がある場合などに適正なサ

	サービスが受けられるよう、どのように市民に普及していけるかが課題になると思う。
⑩	シンポジウムの開催やチラシ等の活用は必要である。その他、住民への普及啓発は、サロン等の集いの場で専門職（例えば訪問看護師）を招いて、少人数制で質問ができるような講座や座談会のような形式をとるのも効果的だと考える。
⑪	住民に周知できていないこともあり、新型コロナウイルス感染症が終息したら、市民向けの講演会を開催してほしい。
⑫	自宅で人生の最期を迎える場合、本人と家族の相談や覚悟について等、かかりつけ医（往診医）、訪問看護師等のサポートが必要になると思うので、住民への普及啓発は重要だと考える。
⑬	広報で安心して地域で生活していくためのサービスが紹介されていて、今後も在宅医療・介護連携会議の必要性を感じた。訪問介護や医療が広まり、在宅で必要なサービスを受け“いつまでも自分らしく”が叶えられる体制づくりを考えていきたい。
⑭	引き続き、広報の特集で啓発していけると良い。
⑮	市民で医療や介護保険等について理解している人は、まだまだ少ないように感じる。コロナ禍ではあるが、広報以外にも高齢者あんしん相談センターや福祉センター等で普及活動ができると良い。
⑯	広報の特集記事による普及啓発は、講演会等に参加が難しい市民にも良いアピールになったと思う。

議題 2：令和 3 年度在宅医療・介護連携推進事業の取組について

委員の意見等	
①	コロナ禍で新しい状況でのオンラインのワークショップ等も必要になってくると思われる。WEB環境アンケートを基にぜひ実行してほしい。
②	コロナ禍でどのようなことに取り組んでいけるのか、昨年度のワークショップやケアカフェなどで顔のみえる関係づくりが少しずつできていたので、それを次年度にはオンラインにせよ何かできると良い。
③	在宅医療ではないが、どう見ても要介護状態である人が介護サービスを知らない状況で医療機関に通院していた例がある。介護サービスにつながる窓口の一つとしてのかかりつけ医の役割が十分に機能しているとは思えない一例で、決して少なくはないと思う。いろいろと理由はあるかと思われるが、一つの理由として、医師が多忙で本人や家族と十分に話を進める時間が無いのかと思う。PDCAサイクルを回して、志木市独自のシステム構築を検討してみるのも良い。
④	来年度もケアカフェやワークショップのような多人数を集める催しができるか不明のため、状況に合わせて取組を検討していくのが良い。
⑤	新型コロナウイルスの影響によって、医療・介護のあり方は一変してしまった。この変化はおそらく一過性のものではないため、それにどう合わせてアップデートするかということ課題として明示的に取り上げるべきだと思う。
⑥	住民が切れ目なく医療や介護がスムーズに利用できる体制が整い、サービスも充実すると良い。
⑦	関係者の連携を支援する取組は、関係者にとって心強いと思う。実際の連携のなかで、お互いが不便と感じていることを伝えあえるシステムができると良い。

⑧	志木市の現状や問題点、課題を整理して、より良い地域づくりに貢献していきたい。
⑨	コロナ禍なので今できることをやるしかない。
⑩	多職種が互いを知り、連絡を取り合い結びつき、「お助けガイド」や「朝霞地区入退院支援ルール」の活用の広がりや連携が進み、より良い支援につながると良い。

議題3：認知症初期集中支援チーム事業の取組について

委員の意見等	
①	取組内容を知ることができて良かった。病院としては、どのように連携できるかを考えていきたい。
②	コロナ禍でもあり、直接訪問しての活動が難しくなっていることもあるが、今後も認知症の人が専門医に受診するきっかけになると思う。ぜひ継続してほしい。
③	チーム員の訪問は、本人、家族、支援者にとってプラスになると思うが、周知が足りないのかケアマネジャーも十分理解していない。
④	事業の取組で和光病院にはいつも大変お世話になり、感謝している。
⑤	初期集中については効果があると思うが、日程調整などがもう少しスムーズにいくと良い。
⑥	医療と介護が初回から関わることができるため、引き続き実施してほしい。
⑦	高齢者世帯実態調査や地域の民生委員からの情報をもっともう少し上手く取り込めるような仕組みづくりが必要だと思う。
⑧	是非取り組みを続けてほしい。
⑨	認知症なのか精神疾患なのか見極めは本当に難しく、初回に専門医が訪問してくれて、受診等勧めてくれるためとても心強い、
⑩	対象者に同居家族がいる場合で、関心がなかったり、支援に対しての拒否がある場合の事業の導入が難しいと感じている。
⑪	素晴らしい取組である。介護負担が多く、抑うつ状態である家族の支援のためにも、より広く住民に周知できると良い。
⑫	とても良い取組で住民にも周知されているようなので、今後も幅広く利用していただきたいと思う。
⑬	認知症カフェ、認知症サポーター養成講座等の開催で協力していきたい。